議 事 録

委員長	委 員	委 員	事 務 局
会議名称	令和6年度 第2回 固定資産評価審査委員会		
日時及び場所	令和7年3月24日(月) 9:30 ～ 10:15		
出席者	委員会：木村委員長 山崎委員 杉本委員 事務局：総務課 出井課長 上田課長補佐 岩美町：税務課 日下部課長 田村課長補佐、菅原主任		
内 容	定例会（後期）		
<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 令和6年度固定資産税の申し出等による修正状況について</p> <p>【税務課】</p> <p>第1期、第2期については、前回説明したものと同じになります。</p> <p>3期に3件の過疎法免除、3件の課税修正、1件の生活保護減免を行っており、4期に償却資産申告による1件の課税修正を行っています。現年分の課税修正の内訳は、家屋滅失と償却資産の申告があったものです。過年度分の課税修正は家屋滅失によるものがありました。</p> <p>(2) 令和7年度固定資産評価状況（見込）について</p> <p>【税務課】・土地について説明</p> <p>令和6年度概要調査と比べて、田、畑は減少しています。農地転用や、農業委員会の調査により原野、山林となったものがあったことによります。</p> <p>宅地は筆数は減少しているが、地積と評価額は若干増えています。これは宅地造成されたものをいったん雑種地としていましたが、家が建ち宅地としたことによります。</p> <p>鉱泉地、池沼は異動がありません。原野が増えているのは農地から地目変更となったもので、山林の地籍が減っているのは、見直しにより原野としたものが大きな面積であったためです。</p> <p>雑種地は、農地から雑種地になったものもありますが、先ほど説明しました宅地となったものもありますので減少しています。</p> <p>今年度の地籍調査は、田後と長谷の登記が完了しております。筆数自体は減っていますが、地積は若干増えています。宅地などの平地は終わっており、今後は山の方に入っていきます。</p> <p>【税務課】・家屋について説明</p> <p>木造家屋については、令和6年度と比べると継続分、減少分の合計で床面積99.97%、評価額は103.35%となっており、同等に推移する見込みとなっています。</p> <p>減少分については、令和6年度の滅失が104棟だったのに対して、7年度は88棟となっており、大きく減っています。相談対応の中で、解体費用が思ったより高額で手が付けられないと言われることがありますので、解体費用の高騰により滅失が減少しているのではと考えています。</p> <p>新築増築分については棟数は令和6年度と大きく変わらず推移していますが、床面積は減っていますが、単価は上がっているのは、物価高の影響で平米当たりの単価が高くなっているものと思います。</p> <p>非木造家屋については、減少分が増えています。滅失が9棟となっており、大きな要因としては、バス停留所の建屋を取り壊されたことによります。</p> <p>新築分については、令和7年度見込みは3棟で、例年は戸建の非木造のものが何件かありましたが、令和7年度は1件もありませんでした。</p> <p>【税務課】・償却資産について説明</p> <p>昨年と比べて大きな動きは見られませんでした。</p>			

【質疑】

【委員長】

木造家屋の滅失棟数は多いように感じる。

【税務課】

戸建の家屋をイメージされるかもしれませんが、小さな倉庫や土蔵のようなものもあってそれらが多いです。

【委員長】

新築分についてはどうか。

【税務課】

大きな造成地がだんだん埋まってきています。

(3)その他

【税務課】・地価公示について説明

岩美町では3地点の地価公示が発表されましたが、令和6年と比べて①浦富字竹ヶ下と②大谷字中日比野屋敷は変わりはありませんでした。③浦富字肥田は100円下がっております。

4. 閉会